

協働のまちづくり説明会記録(久々野地区)

《開 会》

《説明者等紹介・日程説明》

《市民活動推進課説明》

①地域ですすめるまちづくりについて

(協働のまちづくりについて、自主運営組織のあり方について)

《①に対するの質疑応答》

- ・特に質疑なし

《企画課説明》

②行政ですすめるまちづくりについて

(市民参加条例(仮称)の制定に向けて)

《②に対するの質疑応答》

- ・特に質疑なし

《説明全体に対するの質疑応答・意見交換》

- ・組織のイメージ図が示され、人的、財政的支援もあるようだが、事務局はどの場所を想定しているのか。また、財政的支援のお金は組織の中で自由に使えるのか、それとも制約があるのか。

事務局は重要な位置づけであると考えているが、基本的には現在ある社教ルームや支所を想定した中で検討している。お金は事務局が管理することになり、地域で自由に使えるような仕組みを検討している。

- ・人的支援として地区社会教育主事や支所職員が事務局を担うことになるのか。

事務局は、現在の地区社会教育主事や支所は関わってくるものと想定しているほか、それにプラスする人材で検討している。

- ・町内会連絡協議会では協働のまちづくりを重要なテーマと捉えて議論を行っている。高山地域は大きく変わらないが、支所地域は地域振興特別予算が終了し、予算的な危機感を持っている。今回の説明会では、予算的な部分にふれていないので、今後の流れの中で厳しい状況になるのではないかと感じている。現在、地区社教が行っている社会教育関係事業については、合併前は各町村の教育委員会事務局職員が社会教育主

事の資格を取得し担当していた。本来はそうあるべきであると思うが、現実的には難しい問題もあるため、地域を熟知した専門的に携われる人材が必要であると感じている。人材育成を含め、配置にはしっかりとした規定を設けて進めていただきたいし、それらに係る経費についても、これまで以上に支援いただきたい。今後、久々野地域をどう動かしていったらよいのか心配している。

人材は大変重要であり、地域採用も視野に入れる中で人材育成を強化する方向で検討を進めていく。

(社会教育委員)

高山地域の説明会に出席した中で、現在、地域づくりに関わる、町内会、地区社教、PTA等の団体は順調にやっているのに、なぜ新しい仕組みが必要なのかとの意見があった。また、行政がやらなければいけないことを地域に押し付けているのではないかとの意見もあった。協働のまちづくりの出発点は行政依存からの脱却であり、市民が主体であるという意識改革が必要である。地域の特性を活かし、将来の地域ビジョンを描きながら、課題解決に向けてみんなで知恵を出しながら進めるものである。みなさんの意識が変わらないと、なぜ新しい仕組みが必要なのかとの意見も出るため、もう少しその点について説明願いたい。

将来を見据えると地域の担い手不足、1年交代の町内会長では見直しが進まない、子ども会が組織できない、アパート入居者が町内会に加入しないなど、議論をするといろいろな課題が出てくる。それらを踏まえて、解決策や方向性の議論を深めていただきたい。

《閉 会》